

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
誰もが安心して生活できる地域社会の実現	自立支援と家族の介助の支援	高齢者	高齢者の孤立防止や社会参加、健康や体力維持に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 外出機会が減少し体力維持が難しい。 人との接触を好まない高齢者への声掛けや対応が難しい。 地域行事で世話をする人が減ってきている。 生活意欲が向上するような趣味や楽しみを持たない高齢者が多い。 行政と連携がとれていない高齢者やその家族がいる。 老老介護、8050問題などが心配。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を受け入れる施設やイベントなどの充実。 サロンやイベントなどの開催とその周知 公民館など住民とのつながりをつくるための居場所づくり。 100歳体操等、体力づくりをする機会を増やす。 独居老人を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい・いきいきサロン、百歳体操など、出かけて交流したり体力づくりをする場への協力。 高齢者支援センターとの連携
			高齢者の経済的問題や生活困窮、交通手段や買い物等生活課題に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 経済的な支援の制度を知らない。 大型店舗の開店で個人商店が閉店し、近くに店がなくなった。 地域のタクシー会社の倒産など、公共交通機関が使いにくい。 事故の心配があっても、免許を返納できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済的な支援の制度に関する周知を図る。 宅配サービスや移動販売などの紹介。 買い物タクシーなど、高齢者が利用しやすいものが必要。 運転免許返納への話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携して、様々なサービスを周知し、利用の促進を図る。
			認知症高齢者に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴い、認知症の人が増えている。 認知症高齢者に関する情報把握が難しい。 認知症の方の俳諧の判断が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の方の家族（関係者）への支援体制の構築。 認知症を学ぶための勉強会の開催 相談窓口の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ささえりあの協力を得て、民児協を中心とした認知症についての研修会の充実。
		障がい児・者	障がい児・者に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 知識が乏しく、障がい児・者への接し方が分からない。 障がい児・者に関する情報の把握が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修等を通して、障がい児・者やその家族に関する正しい理解や知識を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者支援センターウィズと連携するとともに、研修の機会をもつ。
	子どもの見守りと保護者の支援	子ども・子育て	子ども・子育て家庭の見守りに関すること	<ul style="list-style-type: none"> 家庭内の子どもの状況は高齢者より把握が困難。 子どもの状況の情報が少なく、支援も難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに関して気軽に集まれる場所が必要。 親子が気軽に参加できる行事等の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てネットワーク（わんぱく広場）の定期的な開催。 校区子ども見守り隊や民児協の挨拶運動との連携。 校区・町内のイベントの開催への協力。
			子ども・子育て家庭の孤立と、貧困問題等子どもの人権に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会やPTAへの加入世帯の減少。 地域とのつながりが薄く、孤立している。 心配な状況があっても立ち入れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが関わる活動への支援。 子ども食堂の立ち上げ。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会活動等との協力と連携。 虐待やヤングケアラーなど子どもに関する研修の機会をつくる。
	自助・共助の啓発	災害・防災	災害時に対する備えや体制づくりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> 河川や用水路の氾濫による水害が心配。 災害に対応する訓練や備えができていない。 自主防災組織が機能するかわからない。 防災や要支援者に関する情報の把握が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市に陳情した水害対策については時間がかかるので、当面は垂直避難を主として次のような対策を講じておく。 災害時の自主防災組織の活動の確認。 各町内毎に定期的な避難訓練の実施、若しくは避難経路・方法等の確認。 危険箇所や防災情報の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障害者、子どもの災害時の避難方法等の確認 災害時の助け合いに関する啓発活動 関係機関との連携 避難所運営委員会との連携
			災害時における避難に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 水害で冠水した場合など避難所に行くまでが心配。 高齢者等避難の要援護者の避難の心配。 避難所のキャバや支援物資の問題。 		
	校区住民の相互理解の促進	その他	環境や治安に関する事 空き家・空き地・ゴミ屋敷に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ごみステーションのルールを守らない人がいる。 長年放置されている空き家がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみステーションのルールの周知と、清掃と管理の方法を検討する。 長期間の空き家に関しては市に連絡するなど連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区内の諸課題に関する情報や対応などを周知し、理解を得る。 関係機関との連携、情報提供を推進する。 各種団体との連携し、人材発掘情報得る。
			地域団体に関する事	<ul style="list-style-type: none"> 様々な団体があるがそれぞれの活動内容が分からない。 地域団体役員のなり手がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各団体で世代間交流の場をつくり、交流の機会を増やす。 各団体で活動のようすを知らせ、仲間を増やす方法を検討する。 	